

今回は、企業知財部門の中においてコスト・品質ともに関心を集めている海外出願に関し、そのコスト構造で大きな位置を占める翻訳（英訳）について、最近の動向を紹介したいと思います。

以下のような項目で内容を整理しています。

ご興味ある方には詳細をお伝えしますので、ご連絡をお願いします。

### 1. 海外出願比率が向上している背景

- ①顧客 & 競合のグローバル化
- ②国内のみ出願がもたらす技術流出
- ③国内出願の厳選



### 2. 海外出願のコスト構造とコスト削減を期待できる3つの方法

- ①PCT出願 [指定国；米独中韓] から権利化直前までのコスト構造（一般論）
- ②3つの削減策を簡単に紹介



### 3. 最も削減効果を期待できる翻訳（英訳）料金への最近の取り組み

#### 【海外出願2000件以上の超大企業の取り組み】

知財分社での翻訳の内製化（機械翻訳の活用）

#### 【その他の大企業の取り組み】

特許事務所に対しての翻訳会社指定フローの採用

[メリット]

- (1) 翻訳会社との間で料金設定
- (2) 過去翻訳案件の利用による重複翻訳の削減  
(サン・フレア社の場合)

《これからの方向性》

- ①機械翻訳・人手翻訳共に、誤訳起因となる原文日本語の見直しが再びクローズアップされてきた。
- ②上記①への対応として、翻訳会社と企業の両方が最適な段階での原文チェックand/orリライトを検討している。